

# 立花宗茂 と闇千代 ドラマプロット

最終話

—こんな大河ドラマが見てみたい—

■文=小山田桐子/憐D&N ■イラスト=大久保ヤマト  
※この物語は史実を基に、一部フィクションで作成されています。  
【問】市観光課観光推進係 (☎77・8563)

## 柳川再封400年記念特別展「復活の大名 立花宗茂」を開催

柳川古文書館館長 田淵義樹

今年、元和6(1620)年11月に立花宗茂の柳川再封が決定して400年の節目の年です。関ヶ原の戦い後に柳川城を開城し、6年にわたる牢人生活、そして奥州南郷(棚倉)での14年を経て、元和7(1621)年2月、宗茂は約20年ぶりに柳川の地へと戻ってきました。

12月4日(金)から来年2月7日(日)まで柳川古文書館と立花家史料館が共同で、柳川再封400年記念特別展「復活の大名 立花宗茂」を開催します。関ヶ原の戦いで改易された大名のうち、唯一、元の領地に大名として再起を果たした「復活の大名」立花宗茂。柳川再封後の活躍とその魅力を、最新の資料を基に紹介します。

この特別展で初めて柳川で公開されるのが、センチュリー文化財団所蔵の立花宗茂像です。宗茂の肖像画といえば、立花家史料館や福厳寺に所蔵されているもののように、衣冠束帯で描かれたものが一般的。しかし、今回の宗茂像は、出家して立齋と号していた頃の法衣姿で描かれています。



立花宗茂像(部分) センチュリー文化財団所蔵・慶應義塾大学附属研究所斯道文庫寄託

よく見ると左手に頭巾を持ち、宗茂の前には杖が置かれています。頭巾は、寛永16(1639)年2月に三代将軍徳川家光が酒井忠勝邸を訪問した際、同行した宗茂に「寒いだろう」と渡し、自身の前でかぶってよいと許可したもので、また、杖も同年9月に家光から拝領したもので、江戸城内での使用も認められました。これらのエピソードから、晩年の宗茂が、いかに三代将軍家光から信頼されていたかが分かります。だからこそ、晩年の法衣姿の宗茂を描くときは、この頭巾と杖を描き込む必要があったのです。

この肖像画は、宗茂につかえた木付茂慶の依頼によって描かれたもので、寛永19(1642)年の宗茂没後間もない頃に制作されたと考えられています。

この他にも大徳寺大慈院(京都市)と高野山大圓院(和歌山県高野町)が所蔵する宗茂像を東京大学史料編纂所が模写したのも柳川古文書館で展示します。また福厳寺、三柱神社、立花家史料館が所蔵する宗茂肖像画は、立花家史料館で公開する予定です。ぜひ、2館でご覧ください。

### 関連行事

#### 特別展「復活の大名 立花宗茂」公開講座

- ◆日時 来年2月7日(日)、午後1時30分～4時30分(開場は30分前)
- ◆会場 市民文化会館イベントホール
- ◆定員 80人(応募者多数の場合は抽選)
- ◆内容 柳川古文書館の田淵義樹館長と立花家史料館の植野おかり館長が「立花宗茂の魅力」と題して講演。入場無料
- ◆申込方法 12月20日(日)までに、住所、氏名、電話番号を明記し、柳川古文書館(〒832-0021 柳川市隅町71・2、FAX72・5559、電子メール komon@city.yanagawa.lg.jp)まで、はがき、ファクス、または電子メールで申し込み ※手話が必要な人は、その旨記入してください。

【問】柳川古文書館 (☎72・1037)



エピソード  
個性の時代の終わりと  
妥協の時代の始まり  
どんな時代でもただただ一生懸命に生きた男の思い

新月の夜。酒を飲みたいという家光のお相伴にあずかる宗茂。  
若い頃と変わらず、乱れる気配もなく、涼しい顔で盃を重ねる。

家光にねだられるままに、宗茂は戦国時代の武人たちの活躍を語って聞かせる。  
戦国の世に比べ、今の太平の世はつまらないという不満げな家光に、宗茂は「群雄割拠した戦国時代、個性の時代はもう終わったのです」と穏やかに語り掛ける。  
「領国を治めるのに必要なのは、非凡な才能でも個性でもない。原理と現実の融合、つ

### ～人物紹介～

京都浪人時代を支えた人物②

#### 小河彦次郎

宗茂の支援者となった京の商人。どこかつかみどころのない人物。蘭溪和尚から宗茂の評判を聞いた彦次郎は、商売の好機とすべく近づくが、次第にその人間的魅力にひかれ、商人でありながら、損得抜きで金銭的に支援していく。



「個性の時代は終わりか」  
悲し気に呟く家光に、宗茂は微笑む。  
「それは悲しいことばかりではありません」  
宗茂は夜空を見上げる。月の光に邪魔されることなく、視界いっぱい輝く天の川。  
「妥協によって、新しく見えてくるものだってきっとある」  
(若い頃はまばゆいばかりの

月多の妥協なのです」  
「個性の時代は終わりか」  
悲し気に呟く家光に、宗茂は微笑む。  
「それは悲しいことばかりではありません」  
宗茂は夜空を見上げる。月の光に邪魔されることなく、視界いっぱい輝く天の川。  
「妥協によって、新しく見えてくるものだってきっとある」  
(若い頃はまばゆいばかりの

月の光にひかれていたが、今はこの天の川こそ美しいと思ふ……)  
天の川を見上げ、星のひとつひとつに思いをはせながら、宗茂はゆっくりと盃を重ねていく。  
立花宗茂と闇千代ドラマプロットは、今回で終了します。

## 第4章 奇跡の復活劇、立花宗茂という武将がいた！⑩

